

# 平成 23 年度 岐阜総合学園高等学校 自己評価

(○：成果 ▲：課題 ※：来年度に向けての改善策)

## 1 学校経営

自己評価 A ⊖ C D

- 部活動において、弓道部女子団体の国体優勝、ホッケー部男子の国体優勝をはじめ、多くの部で好成績を残した。また、資格試験、検定試験、コンテストなどにおいて、素晴らしい成果をあげることができた。
- 日課を変更し、「全校一斉朝の10分間読書」を通年で実施した。多くの生徒が書物に親しみ、本を読む喜びを実感することができた
- 教室改修等工事、人工芝張替工事の中、安全確保・学習環境等に配慮しながら、円滑に学校運営を進めることができた。
- ▲総合学科全国大会の準備、クラス増に向けての対応に継続的に取り組む。
- ▲部活動と勉強の両立が課題である。めざす生徒像を職員が共有し、学ぶ意欲を育成する指導、家庭学習を習慣化させる指導を一層充実する。
- ※来年度は総合学科全国大会、岐阜国体、新入生定員1クラス増への対応など大変な年であるが、それゆえに活躍の機会・場も多く提供されているという特別な年でもある。今年度に引き続き、「教育はチームプレーで!」「職員の率先垂範」を指導の基本におき、諸活動の中で生徒の目標実現を支援していく。
- ※本校の特色である、明るく元気なあいさつ、凜とした身だしなみ、活発な部活動など、社会から望まれる人間性を育成する教育をより一層推進し、本校の取り組みとその成果を積極的に発信していく。

## 2 教務部

自己評価 A ⊖ C D

- 各系列の資格取得状況に、系列の特色を生かした指導の成果が表れている。
- 相互授業参観・授業アンケートの実施、教科会での意見交流などにより、授業改善への意識を向上させることができた。
- ▲各考査期間に家庭学習時間を記録させたが、家庭学習時間を増加させるような働きかけが十分ではなかった。
- ▲H25 入学生用教育課程の作成、クラス増についての対応に継続的に取り組む。
- ※相互授業参観、授業アンケートを継続し、教科指導力の向上に努め、系列の特色を生かした学習指導をさらに発展させる。
- ※家庭学習時間調査をうまく活用して、家庭学習の習慣化を図る。
- ※平成25年度入学生用の教育課程・マトリクス表・科目選択のモデルパターン等を決定する。

## 3 進路指導部

自己評価 ⊕ B C D

- 筑波大学芸術専門学群、三重大学生物資源学部、岐阜大学地域科学部及び工学部など今まで進学実績のない(筑波・三重)難関大学に合格することができた。系列等の継続的な指導で生徒の能力を大きく伸ばすことができた結果である。
- 今年度の新たな取り組みは、2年次生に夏季休業課題としてオープンキャンパス、企業見学、若手社員の講話のいずれかに参加、3年次生には校内実力テスト・就職模試の実施と就職内定者に外部講師による講演(社会人になるための心構え)などである。上記の取り組みも含め、LHR、産業社会と人間、総合学習の時間な

ど多くの機会でライフプランの作成とその実現に向けての取り組みを意識させ、組織的、体系的な指導を昨年度に増して行うことができた。

▲例年約85%が進学してるが、そのほとんどが自分の全国的な学力と進学先の学力レベルを把握せずに進学先を決定している。従って、進学先の授業についていけず進路変更を余儀なくするケースが生じている。進学先で、生徒がより充実した生活を送るためにも外部模試を受験させ自分の学力と進学先の全国的な学力レベルを知った上で進路選択をさせたい。具体的には、来年度より1年次より自分の学力を自覚させ、早くから受験対策に取組み、より高い学力をつけさせ、その後の経過を見て継続的に取組めるように、1年次生には全員に、2・3年次には進路希望に合わせて全国模試を受験させたいと考えている。

※1・2年次生に対して進学希望に合わせて外部模試を受験させ、自分の学力と進学先の全国的な学力レベルを把握させ学習に対する取組みや、入試対策を考えさせる機会を生徒にもたせる。

#### 4 生徒指導部

#### 自己評価 A ⊖ C D

○全校一斉登校点検や校門での挨拶運動を通して、本校としての身だしなみ・挨拶など徐々に良くなってきていると思う。また、交通事故件数も減少し良い傾向である。しかし、通学マナーについての注意・苦情が減少しない。事故に遭遇していないだけであって、交通安全について高い意識を持っているとは言えない。

○問題行動に対して、担任、部顧問等との協力・連携がとれた。その中で、軽微な問題に対する担任・学年主任への連絡が怠ったところがあった。

▲交通安全教育について、交通ルールやマナーについて、継続的な啓発活動・呼びかけ等の強化を図る必要がある。

▲部活動の引退。進路先の決定。3年次生の挨拶・身だしなみ・マナーに関して、急変悪化が見られた。また、遅刻数の多さにも現れている。

※安全で安心な学校生活を送るために、人としての心の教育（豊かな心と思いやりの心）の推進を強化する必要がある。まずは、自己管理と自己責任の心と行動から育成する必要がある。

※ルール・マナーの意識に対してまだまだ希薄さが感じられる。ことある毎に、即座に校内放送で呼びかけ、全校集会・学年集会・各HR・部活動の場で生徒達に訴え指導する。

※規範意識や授業規律に対して、公正に判断できる能力はあるはずであるが、集団になると脱線してもなかなか修復できない弱い面がある。強い心を養う指導が必要ある。

#### 5 特別活動部

#### 自己評価 ⊕ B C D

○生徒一人一人が、学校行事や、委員会活動、部活動などの諸活動において意義を見だし、積極的に取り組む姿勢が、学校の活力となることができた。

○部活動を中心に、各種委員会、系列などにおいて、生徒が、主体的に活動し、その結果、数々のコンテスト、コンクール、東海大会、全国大会などで結果を出した。

○今年度1年次生の部活動定着状況が良かった。特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携を登録カードを使い保護者懇談などにフィードバックすることができた。

- ▲諸活動において、さらに学校への規範意識と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培うことが課題である。
- ※それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。
- ※部活動への取り組みについては、新入生に対してのオリエンテーションの在り方、本登録後の活動状況など、特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携についてより効率化を目指し、生徒一人一人に合った指導方法、援助について研究する。

## 6 保健厚生部

### 自己評価 ㊤ B C D

- 集団行動では、担当職員が早い時間から指導を始め、生徒も素早い行動が出来た。新体力テストでは、今年度も良い成績であった。
- 保健室の利用において、怠学傾向の生徒利用もなく適切であった。
- AED講習会では、心停止事故が発生した時、至急対応できるように、職員とスポーツ科学系列の生徒が受講し修了証を受けた。
- ▲ゴミの出し方（分別）、飲食ゴミの放置、ガムの吐き捨て等、一部マナーの悪い点が見受けられた。
- ※今年度は概ね良い活動・実施状況であったので、来年度も今年度同様、活動・実施していきたい。ゴミの分別、放置、ガムの吐き捨て、マナーについて注意していきたい。

## 7 図書部

### 自己評価 ㊤ B C D

- 校内読書感想文コンクールで優秀な作品が、3年連続で県の読書感想文コンクールでも入賞した。
- 図書館で読書に親しむ生徒が多くなった。
- ▲進学や就職の決まった3年次生にもっと本を読ませたい。
- ※読書感想文コンクールに対して全職員の共通理解が必要であるが、3年連続で県のコンクールに入賞するなど優秀な生徒も多く、次年度以降も継続・発展させたい。通年の朝読書は一年間の反省を参考にして充実発展させ、本校の誇る伝統行事にしていきたい。

## 8 渉外部

### 自己評価 ㊤ B C D

- 会員との連携をより進めたことでPTA研修、学園祭・耐寒競歩大会でのPTAバザーにおける参加者が増えた。
- ▲PTA総会により多くの人に参加できるように進める。
- ※概ね良い活動や実施状況であったので、来年度も今年度同様な活動を実施していきたい。

## 9 1年次

### 自己評価 ㊤ B C D

- 「産業社会と人間」の授業を通して、自己の個性や適性を様々な角度から見つめることができた。特にインターンシップや先輩の話、進路講話、進路ガイダンスを通して自分の将来の生き方あり方を考える良い機会となった。
- 科目選択では教務部、進路指導部、系列と連携を取り生徒の進路実現に向けての指導ができた。

- ▲落ち着いた学校生活を送ることができたが、諸行事への積極的な取り組みや将来設計への主体的取り組みの面では、指示待ちになってしまっていたか。
- ※総合学科の特徴である教科「産業社会と人間」及び科目選択を通して、担任をはじめとし各分掌・教科・系列など、多くの先生の指導により、生徒は自己の生き方あり方を考えることができた。そして、幅広い視野で自分の適性や個性に合った進路選択を考え、ライフプランをまとめあげることができた。
- ※今後は年間計画の見直しを含め、各分掌との連携の在り方を見直し、より具体的かつ効果的指導を行うことができるよう、指導体制の改善を進める必要がある。

## 10 2年次

### 自己評価 B C D

- 新しい系列の学習活動に積極的に取り込むことができ、資格試験やコンクールで大きな成果を上げることができた。また、部活動でも優秀な成績を収めており今後も期待したい。
- 多様な悩みを抱えている生徒が多く、保護者、担任、教育相談部、部顧問等との連携を図り、問題の解決となるよう個々にあった指導助言を継続的に行うことで対応することができた。
- ※自分の目標を実現するための選択科目の学習に取り組むこととなり、今までに経験のない学習環境に新鮮さを感じた年になった。悩みを抱える生徒の対応について保護者、担任、分掌等と連携を図り適切な指導助言を行うことで対応できた。今後も進路実現に向かうにつれて、さまざまな生徒への対応がより難しくなると考えられる。資格試験やコンクールまた部活動で、先生方の指導のもと素晴らしい成果をあげ、さらに今後の活躍に期待したい。年次として今後もクラスの雰囲気作りと協力体制作りを意識して行いたい。

## 11 3年次

### 自己評価 A B C D

- 生徒と担任、系列担当者との個人懇談を充実させて生徒の進路希望を的確に把握し、生徒の希望に添うような進路指導ができた。
- 継続的な活動の結果、各種大会において優秀な成績を収めることができた。
- ▲諸般の事情で集会が持てず、HRでの指導に限られたことも含め、集団への帰属意識、また集団の一員として協調性、良識ある行動の大切さなど、もっと問題意識を普段から意識させて取り組めるとよかった。
- ※進路決定後に、生徒の学習意欲や目的意識の低下が一部見られた。それが生活のリズムや態度の乱れにつながる場合もあるので、最後まで緊張感を持って生活させるために、生徒個々の進路に合わせて系列ごとで課題を設定し、内定後の学習について観察していく必要がある。
- ※系列別及び進路を考えたクラス編成を基本としたが、昨年度より系列分割数を多くすることで、男女の割合をなるべく等しくし、また人間関係を配慮したクラス編成とした。このことは系列別クラスの意識が薄くなり、進路指導面での統一感がやや感じられなくなり課題がある。3年次のクラス編成についてあらゆる面から検討し、さらによりよいクラス編成をする必要がある。